

令和 2 年 6 月 11 日現在

機関番号：32510

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2018～2019

課題番号：18H05771・19K20963

研究課題名（和文）日本語多読活動支援者のためのマニュアル開発

研究課題名（英文）A Manual for Supporters of Extensive Japanese Reading

研究代表者

高橋 亘（TAKAHASHI, Wataru）

神田外語大学・留学生別科・講師

研究者番号：60823193

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、日本語多読活動を円滑に、かつ効果的に運営するための新たな支援者用マニュアル開発を行った。まず、国内外多読活動支援者の多読活動に対する意識調査を実施した結果、非常に肯定的な意識を持っていることが明らかになった。また、支援者へのインタビュー調査をもとに、国内外高等教育機関や日本語学校、地域の日本語教室等における活動背景を詳細に明らかにし、支援者が学習者をサポートする際の効果的な方法を提案した。さらに、多読支援の際に陥りやすい課題について解決法を取り上げ、支援者がそれぞれの現場で活用できるようにウェブ上に公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまでの日本語多読研究は、実践報告や学習者の意識を分析した研究はなされているものの、実際の活動実施を担う支援者の視点から感じる意識や、学習者への効果的なサポート方法に関し、網羅的には明らかにされてこなかった。そこで、本研究では、支援者に焦点を当てて分析し、日本語多読活動を円滑に、かつ効果的に運営するために、支援者が学習者をサポートする際の効果的な方法を提言し、新たな支援者用マニュアルの一部として、ウェブ上に公開した。以上のことから、本研究では、日本語多読支援者が多読活動をより円滑に、かつより効果的に運営するための素地を作り上げることができたと考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to develop a new manual for supporters of extensive Japanese reading (ER) so that they can smoothly and effectively organize ER activities. Questionnaires were administered to understand supporters' and learners' perceptions of ER in Japan and foreign countries. Based on the interviews conducted with supporters, this study clarified the background of ER activities in various educational institutes such as universities, Japanese language schools, and volunteer Japanese language classes. Furthermore, the researcher proposes more appropriate ways to support learners and solve common problems during the activities for each organization.

研究分野：日本語教育学

キーワード：日本語多読 多読活動支援者 日本語教育 多読活動参加者 マニュアル 自律的教室外多読

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

国内外の第二言語教育の現場で、多読活動の有効性が叫ばれて久しい (Day & Bamford 1998, 栗野他 2012)。研究代表者は、栗野他 (2012) で推奨されている日本語多読の 4 つのルール、すなわち 1) やさしいレベルから読む、2) 辞書を引かないで読む、3) わからないところは飛ばして読む、4) 進まなくなったら他の本を読む、を援用し、活動を実施してきた。これらのルールに基づき、本研究で扱う多読とは、「学習者それぞれが自分の能力に応じて、やさしい読み物から難しいものへ段階的になるべく辞書を使わずに、楽しみながらたくさん読むこと」と定義される。

日本語多読に関する研究は、実践報告を中心に、日本語多読活動に対する学習者の意識を明らかにした研究が、近年急速に進められており、日本語多読による学習者の動機づけ向上や付随的語彙学習、評価方法等に関する研究が報告されてきた。研究代表者は、これまで国内外の高等教育機関において、正規授業時間外の課外活動やサークル活動等として日本語多読活動が実施される授業外多読活動に対する学習者の意識について明らかにしてきた。また、Holec (1981) が「自分自身の学習を管理する能力」と定義した学習者オートノミー (Learner autonomy) の枠組みを利用し、活動終了後の自律的な読み、すなわち自律的教室外多読の継続に注目して、質問紙調査とインタビュー調査を実施し、学習者の読みの実態を縦断的に追ってきた。その結果、授業外多読活動に参加した学習者は、活動に対して肯定的な意識を持ち、この活動はより自律性の高い教室外における読みの継続へのステップになりうることが示唆された。

以上の通り、先行研究では主として学習者を対象とした研究がなされてきた。しかし、日本語教師らが担う多読活動支援者を対象とした研究は少なく、実態把握が求められている。栗野他 (2012) では、国内外の教育機関において先駆的に実施された実践報告がまとめてられているが、その報告数は限定的なものである。さらには、これまで支援者によってそれぞれの機関で独自に活動が運営されているため、どのように活動が開始されたか、そして活動中や活動終了後の学習者に対してどのように支援がなされるべきか共有される機会は極めて少ないという課題についても解決しなければならない。そこで、国内外の教育機関において多読を運営する教師らがどのような意識を持って多読活動を行っているのか、どのような支援方法が有効だと感じているのか、活動運営時にどのような点に困難さを感じているのか等のような実態を解明することが急務であると考えた。そして、学習者が日本語多読を実施する上で、より効果的な支援をするためにはどのような方策が有効か、学習者を支援するためにどのように多読活動を運営していくべきなのかについての新たな示唆や提言も待たれている。そこで本研究では、日本語学習者、そして活動終了後の学習者への効果的な指導方法に焦点を当てて調査を行う。そして、多様な背景に属する支援者に対する効果的な指導方法を開発し、書籍化及びウェブ上での公開を目指す。

2. 研究の目的

本研究では、以下の 3 点に焦点を当てる。(1) 日本語多読支援者がどのような背景で活動を運営しているかを明らかにすること、(2) 支援者が多読活動に対して持つ意識を明らかにすること、(3) 日本語多読活動支援者が学習者をサポートする際の効果的な方法を明らかにすることである。以上の課題を明らかにすることによって、既に日本語多読活動を実施中の支援者をはじめ、日本語多読活動の開始を計画している支援者のために有用な日本語多読活動支援者向けマニュアルを開発し、日本語教育における多読の普及に寄与したいと考えた。

3. 研究の方法

対象者は、国内外において日本語多読を運営する教師やボランティア等の支援者、及び同じく国内外において多読活動に参加経験のある日本語学習者である。

支援者に対しては、32 名を対象に質問紙調査を実施した。分析は、まず回答番号を数値化し、各項目の比率と平均値、標準偏差を算出した。また、自由記述回答に関しては、支援者が実際に採るルール運用に関する回答を中心に抽出した。そして、多読活動機関を見学し、7 名にインタビュー調査を行い、支援を始めたきっかけ、活動の進め方、支援者の多読に対する意識の変化、支援上の課題等を聞き取った。

日本語学習者に対しては、多読活動経験のある 33 名を対象に、多読活動に対する意識を問う質問紙調査を実施した。また、12 名を対象に、以前から実施中であった多読実施状況に関する追跡インタビュー調査を行った。

4. 研究成果

2018 年度には、先行研究を読み込み、多読の理論的背景やこれまでの成果を網羅的に捉えた。また、本調査を行うにあたり、新たに支援者用に作成した質問紙及びインタビューによるパイロット調査を実施し、調査項目の精緻化を行った。質問紙調査は、海外等の遠方に所属する支援者も対象とし、オンライン上のアンケート作成ツールを用いた。調査を実施するための調整を同時に行った。以上の作業をもとに、活動支援者に対する本調査を実施した。また、国内外で実施中の多読活動現場を見学し、支援者に対するインタビュー調査を実施した。さらに、本研究以前から実施していた国内外教育機関における多読活動元参加者 (学習者) に対する追跡インタビュー調査を実施し、その後の日本語多読実施状況について追った。収集したデータを分析し、学会、研究会で発表し、学会誌への投稿を行った。

2019年度には、引き続き収集した調査データの分析作業を実施した。また、支援者及び学習者に対する追跡調査を実施し、研究成果の発表、または学会誌への投稿を行った。さらに、継続して国内外で実施中の多読活動現場を見学し、支援者に対するインタビュー調査を実施した。以上の成果を踏まえ、日本語多読活動支援者向けマニュアル開発の一部である、日本語多読に関するウェブマガジン連載のとりまとめ、一部記事の執筆を行い、ウェブ上での公開を開始した。

(1)日本語多読支援者の背景

質問紙調査を分析した結果、授業内外の活動として、国内外高等教育機関、日本語学校やボランティア機関、国内小中高校の広範囲において、日本語学習者や生活者を対象とした多読支援が実施されていることが明らかになった。

(2)多読活動に対する意識

高橋(2019a)では、海外高等教育機関における日本語多読活動を始める支援者を対象とした開始支援セミナーを取り上げ、具体的な事例を報告した。事後調査の分析からは、支援者には日本語を読む機会の少ない学習者に多読を奨励したいというニーズがあることが明らかになった。また、セミナーを通してグループで読むという活動の楽しさに気づきが見られた。その他、多読を開始するにあたり、活動を開始後に定期的に継続するための施策について課題が見られることも明らかになった。

高橋(2019b)では、支援者が日本語多読の4つのルールに対してどのような意識を持っているのか、その実態を明らかにした。また、支援者が活動中にどのようにルールを運用しているのかに関して調査を実施した。調査結果では、日本語多読のルールに対する意識については、いずれのルールにおいても、回答者からは非常に肯定的な回答が見られた。学習者を対象とした高橋(2018)の調査結果と比較すると、それぞれ回答の平均値は、支援者の方が全体的に高いことが明らかになった。項目ごとの意識の傾向を比較すると、支援者、学習者ともに、辞書を引かないで読む、わからないところは飛ばして読む、の2つのルールが、他の2つよりも肯定度が低く、学習者、支援者共に類似した意識の傾向が見られることが明らかになった。一方で、自由記述解答では、多くの支援者がルールに賛同しながらも、学習者個々人の採る多様な読み方に応じて、ルール運用を調整している実態が明らかになった。これらの結果から、支援者はまず多読のルールを学習者に教え込むのではなく、学習者自身の読みを十分に観察することが重要であると考えられる。そして、ルールに抵抗を示す学習者に対しては、無理せず徐々にルールを使用できるよう支援していく、いわば足場掛けを行う役割を帯びていることが示唆された。

高橋(2019c)では、支援者が持つ活動開始の動機、活動中の気づきや変化、活動実施上の課題に関する調査結果を報告した。活動開始の動機としては、支援者自身の内的動機づけ、学習者のため、外的要因の3点に集約された。支援者の気づきや変化としては、多読支援を開始してから、支援者自身が第二言語多読による多読を開始した等のような自身の読みに対する気づきや変化に関すること、学習者の間違いに寛容になったこと等のような教えることに対する気づきや変化が挙げられた。これらの点から、日本語多読は学習者のみならず、支援者の意識をも変化させている可能性が示唆された。最後に、活動に関する課題は、多読用図書確保や活動中の声掛け方法等のような運営面に課題を感じていることが明らかになった。

(3)支援者用マニュアルの開発

日本語多読支援者や、日本語多読に興味を持つ教師やボランティア等を対象とした支援者用マニュアルの一環として、ウェブマガジン記事の連載を開始した。研究期間中には、全12回を予定していたウェブマガジン連載のうち、5回分の記事の編集、取りまとめ、及び一部記事の執筆を実施した。記事では、前述したインタビュー調査等をもとに、支援者が多読支援を始めたきっかけ、活動の進め方、支援者の多読に対する意識の変化、支援上の課題を機関の特性別に述べた。

(4)その他

英語多読を運営する支援者を対象とした研究会において、日本語多読と英語多読の手法に関して情報交換を行い、日本語多読をより円滑に進めるための示唆を得るとともに、前述した日本語多読が抱える諸問題の解決方法を探った。

(5)今後の展望

日本語多読支援者に対しては、より詳細に聞き取りを行い、支援者が持つ意識をより深く明らかにしていきたい。具体的には、長期的な視点から見た縦断的調査、支援者としての成長、支援者が長期的な視点で活動運営を行う際に必要な指導方法の開発等について、今後分析を行う。そして、日本語多読活動支援者が注意すべき事項、そして長期的に活動運営を行っていく上での指導方法等を提言し、より効果的な日本語多読活動支援者マニュアルを開発していきたい。

<引用文献>

- 栗野真紀子・川本かず子・松田緑 (2012) 『日本語教師のための多読授業入門』 アスク出版
- 高橋亘 (2018) 「海外高等教育機関における日本語多読に対する意識 - ベオグラード大学での質問紙調査を基に - 」 *Proceedings of the Fourth Extensive Reading World Congress*, 79-92
- 高橋亘 (2019a) 「日本語多読活動開始に対する支援事例」 『日本語教育方法研究会誌』 25(2), 48-49
- 高橋亘 (2019b) 「日本語多読支援者は多読のルールをどう考えているのか」 『日本語教育方法研究会誌』 26(1), 72-73
- 高橋亘 (2019c) 「日本語多読活動支援の動機・気づき・課題」 『2019年度日本語教育学会秋季大会予稿集』 232-236
- 日本語教育いどばた「のぞいてみよう！多読の世界」
<https://www.idobata.online/?tag=tadokunosekai> (2020年6月11日最終閲覧)
- Day, R., Bamford, J. (1998). *Extensive Reading in the Second Language Classroom*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Holec, H. (1981). *Autonomy and foreign language learning*, Oxford: Pergamon Press.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 高橋 巨	4. 巻 -
2. 論文標題 海外高等教育機関における日本語多読に対する意識 - ベオグラード大学での質問紙調査を基に -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Extensive Reading World Congress Proceedings	6. 最初と最後の頁 79-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 高橋 巨	4. 巻 25(2)
2. 論文標題 日本語多読活動開始に対する支援事例	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本語教育方法研究会誌	6. 最初と最後の頁 48-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 高橋 巨	4. 巻 26(1)
2. 論文標題 日本語多読支援者は多読のルールをどう考えているのか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本語教育方法研究会誌	6. 最初と最後の頁 72-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 高橋 巨	4. 巻 -
2. 論文標題 日本語多読活動支援の動機・気づき・課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 2019年度日本語教育学会秋季大会予稿集	6. 最初と最後の頁 232-236
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋 亘	4. 巻 22
2. 論文標題 授業外日本語多読活動経験者の自立的教室外多読	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 外国語教育研究	6. 最初と最後の頁 169-181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 高橋 亘
2. 発表標題 授業外日本語多読活動経験者の自立的教室外多読
3. 学会等名 外国語教育学会 第22回研究報告大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋 亘
2. 発表標題 多読のルールに関する学習者の意識調査 (多読のルールの意味 支援者にとって、学習者にとって)
3. 学会等名 第1回日本語多読支援研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋 亘
2. 発表標題 日本語多読活動開始に対する支援事例
3. 学会等名 第52回日本語教育方法研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋 亘
2. 発表標題 日本語多読支援者は多読のルールをどう考えているのか
3. 学会等名 第53回日本語教育方法研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋 亘
2. 発表標題 日本語多読実践と研究の現状
3. 学会等名 科学研究費助成金事業「能動型学習を目指す英語多読指導に役立つアクティビティの開発と選定」(課題番号: 16K02836 基盤研究(c)) 研修会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋 亘
2. 発表標題 日本語多読活動支援の動機・気づき・課題
3. 学会等名 2019年度日本語教育学会秋季大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>【ウェブマガジン連載】 https://www.idobata.online/?tag=tadokunosekai 日本語教育いどばた内「のぞいてみよう!多読の世界」の編集、取りまとめを行い、記事執筆にも携わった。</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----